

契 約 変 更 理 由 書

神戸市

業 務 名	第 2 須磨汚水幹線他築造工事
契約変更後の業務概要 シールド工(泥土圧式)仕上り内径 ϕ 1500 mm L=1827.47m 中大口径推進工(泥濃式推進工) ϕ 1800 mm L=236.96m 中大口径推進工(刃口推進工) ϕ 1100 mm L=19.25m 小口径推進工 1 式, マンホール工 1 式, 立坑工 1 式, 付帯工 1 式, 仮設工 1 式	
契約変更の理由 本工事は、須磨汚水幹線の耐震化を図るための第 2 須磨汚水幹線及び現在改築中の西部処理場への流入渠を築造するための工事であるが、以下の理由により契約変更が生じる。 <ul style="list-style-type: none">・ 工事着手前に神戸須磨シーワールドに工事説明を行った際に、動物が振動に敏感なため工事による振動を抑えるよう要望を受けた。そのため、鋼矢板の施工をバイブロハンマによる打込み工法から振動を抑えることができる油圧圧入工法に変更し、かつ発進立坑付近のボーリング柱状図で最大 N 値 50 を超えていることから同工法の硬質地盤用を採用する。・ 本工事のうち、No.1 発進立坑築造箇所及び一部の推進区間は、土壤汚染対策法(土対法)に定める形質変更時要届出区域に該当する。当初は過年度調査にて判明している土壤汚染深度 GL-0.3m～-9m に対して推進工の深さが GL-12m 付近であることから、通常の建設汚泥として残土処分することとしていたが、施工計画立案のうえ環境局と土対法協議を行った結果、①GL-9m 以深についても汚染土壌として取り扱うこと、②指定区域内から区域外に向かって推進工を行う際は区域外から発生する土についても一定量汚染土壌として取り扱うよう指示を受けたため、泥濃式推進工を増工する。また、地盤改良工(高圧噴射攪拌工)にて発生する汚泥についても汚染土として処分するよう指示を受けたため、増工する。・ 当初は掘削残土を北系水処理施設用地の盛土(将来施工)に流用する計画であった。盛土実施まで掘削土を仮置きする必要があるが、改めて場内の他工事と調整した結果、掘削土の長期間の仮置きが困難となり、残土運搬処分をする必要が生じた。以上のことから、立坑工 (No.2 到達立坑) を増工する。・ 工事着手前の地元説明の際に、工事による振動を抑えるよう強く要望を受けた。そのため、鋼矢板の施工をバイブロハンマによる打込工法から振動を抑えることができる油圧圧入工法に変更し、かつ発進立坑の鋼矢板と同様に最大 N 値が 50 を超えていることから同工法の硬質地盤用を採用する。・ 上記の鋼矢板と同様に、親杭横矢板工法(土留め欠損部)の H 鋼杭工(親杭)の施工をバイブロハンマ打込工法から振動を抑えることができるプレボーリング工法に変更する。	

(公表様式第 6 号)